



●Kero Kero 通信●

第 317 号



崎山小児科・院内報

8 月 2025 年

無駄と思うこと



子どもがなぐり書きのように描いた絵やほぼ無意味に畳んだだけの折り紙。子どもが楽しそうに遊んだあとの空間にこのようなものがテーブルの上だけでなく床にいくつも散らばっています。嵐のあとの庭先に小枝や葉っぱが数多く残されているような感じで、あと片付けにも手間がかかります。綺麗な紙であったものをゴミ箱に捨てることになるので、「こんなに一杯、無駄にして、困ったものだ」と思う瞬間があります。

実は子どもが描くいびつな丸は好きな人の顔であり、折っただけの千代紙は綺麗と思った花なのです。作品を残そうと本人は思っていないでしょうし、記念にしようという気持ちもないので、後で捨ててしまっても本人は気にしないはずですが、絵を描く、紙を折るときは、何かを感じてそれを行動に表したはずです。きっと描いているとき、折っているときは楽しかったことでしょう。楽しく遊べた。こどもにとってそれはとても大切なことです。

乳幼児だけでなく、大人であっても、あとから思えば無駄だった行動、例えば結果が出せなかった仕事、完成できなかったもの、何かを無くしたあるいは失うに至った行動、そんなことはいくらでもあります。「あ、無駄なことやってしまった、失敗、失敗、誰かに気づかれると気まずいな」などと思う瞬間は数多くあります。とくに人の好意や手間を無駄にしたときは申し訳ない気持ちも加わって、そんな自分が情けなく思えることもあります。ものを無くしたときなどは、取り戻すための時間もかかり、無駄に思うこと半端ないです。

しかし、子どもの無造作なお絵描きや折り紙も楽しさを感じるとともに、できるが増える成長の過程です。大人の無駄も、無駄を繰り返す中になにか新しい切っ掛けやひらめきを見つけるなど、次の成功につながる大切な経験値であるはずですが、他人から見れば良好な結果を伴わない不適切な行動であったかもしれません。迷惑をかけることになったかもしれませんが、生きていればそれは何度でもあることです。

無駄とは、その結果や行動にその人が価値を見出せなかったということで、もしかすると「無駄」と言っている人の技量の無さを示しているのかもしれませんが。無駄を見直すとは、反省することだけでなく、その中に秘めている価値を見つけることだと思います。

夏の皮膚トラブル



梅雨が明け、夏本番がやってきました。夏休みに入り、海や山、キャンプなど外に出かける機会が増えるこの時期、多くなるのが「虫刺され」です。虫刺されは蚊、アブ、ブヨ、ダニ、ハチなどに刺されて炎症を起こします。虫の唾液や毒に含まれる成分が体内に入り、アレルギー反応を起こし、かゆみや皮膚の赤み、腫れが現れます。刺されてからの対応はもちろんですが、刺される前に対策をしておくことが大切です。

<子どもは腫れやすい？>

刺された時の反応には「即時型」と「遅延型」があります。乳幼児は免疫反応が未熟で刺される経験も少ないため、刺されてから1日~2日遅れて強く反応が出る「遅延型」の傾向にあります。成長に伴い何年にもわたって繰り返し刺されると即時型へ移行し、それほど腫れなくなってきました。

<予防>

- 肌の露出を避ける服装にする
- 白など明るい色の服を着る
- 虫よけスプレーを使用（ディートという成分が入っているものは、生後6ヶ月未満の子どもには使用できませんので注意しましょう）スプレーやミストタイプの虫よけ剤を子どもに使用する場合は吸い込んでしまう可能性があるため、子どもの肌に直接噴霧せず、大人の手にとったものを塗り広げる。シートタイプの虫よけ剤も便利です
- 足の裏を清潔に保つ（蚊は臭いの原因物質「イソ吉草酸」を好むため）
- 爪をこまめに切り、かき壊しを作らない

<刺された時の対応>

- 流水で患部を洗い、毒素を取り除く
- 早めに炎症を抑えるステロイド軟膏やかゆみを抑える抗ヒスタミン軟膏を塗る
- 塗り薬がない時は患部を冷やす

<受診するタイミング>

- 腫れが広がり熱感がある
- 痛みが強い
- 発疹が増えた
- 水疱になってジュクジュクしている
- かゆみが強く、かき壊している
- 発熱している

